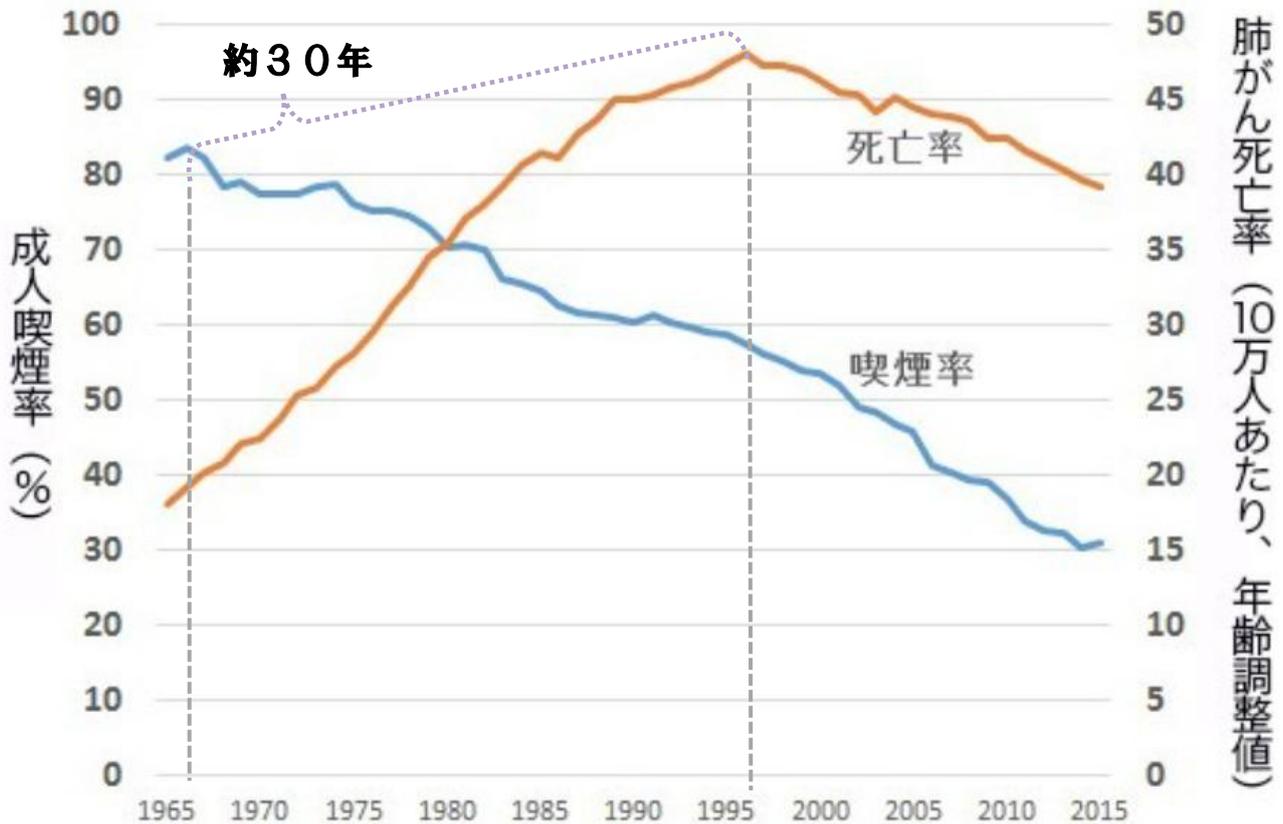


週刊 **タバコの正体**

日本人男性の喫煙率および年齢調整肺がん死亡率の推移



日本人男性の喫煙率と肺がん死亡率（酒井健司医師作成。喫煙率のデータ：厚生労働省のサイト；肺がん死亡率：国立がん研究センターがん情報サービスのサイト）  
公益財団法人 札幌がんセミナー HP から

上のグラフは喫煙率と肺がん死亡率の推移を示しています。喫煙を続けると肺がんになる確率が高くなるので喫煙率が高いと肺がん死亡率も高くなるのですが、グラフを良く見てください。喫煙率は1965年をピークに下がり始めたのに対し死亡率は1995年まで上昇し続け、その後下がり始めています。

これは喫煙で肺がんになるまでには時間がかかる事を示しているのです。つまり肺がんになるまでに30年近くかかると言うことなので、吸い始めて10年や20年では健康状態に大きな変化はない事が多いのです。また喫煙が原因で発症するCOPDと呼ばれる肺の病気も下の図のように、年齢を重ねるごとに悪化し、後年は不自由な生活をする事になります。

タバコを吸い始めてもすぐには健康被害を実感することはありません。しかし、その事がかえって喫煙を続けさせ、将来的に致命的な病気を発症させるのです。20歳から吸い始めたとしても50歳を過ぎた頃から影響が出てくる事を知っておいてください。

産業デザイン科  
奥田 恭久



COPD-jp.com 肺の病気 COPD(慢性閉塞性肺疾患)総合情報サイトより引用